

『一生懸命』幻の新座市議会報告第170弾!



たかむらともや

③ 移民政策は駄目だ!!

安倍政権による移民政策は完全にアウトです。今、ヨーロッパで何が起きているか理解できていない政治家にこれからの日本を託すのは危険過ぎます。

移民政策は我々の子ども達の仕事を奪います。

そして、我々の子ども達は勿論、働く人全ての「実質賃金」を下げることに繋がっていくのです。

移民政策で喜ぶのは「財界」です。彼らは儲けることしか眼中にありませんから、いかにして人件費を抑えるかに夢中なのです。

それは、現在日本で働いている外国人労働者の待遇を見れば分かります。彼らは「安くて」「過酷」な労働を強いられています。

そして、そのことが現在も日本の若者たちの賃金が上がらないことに繋がっているのです。

世界中で、特にヨーロッパで「移民」が大問題になっています。日本は世界から見たら、逆行した「少子化政策」を取ろうとしているのです。

日本に子どもが増えないのは、安心して「結婚」できないからであり、安心して「子育て」できないからです。歴代の自民党政権が安心して「高等教育」を受けさせることが出来ない国にしてしまったのです。

僕は昭和29年生まれですが、当時の僕らは勉強さえすれば、国立大学に入り、そして、奨学金があれば自分の力だけでも卒業することができました。入学金は12000円、学費も月に3000円の時代でした。(僕らの2年先輩達までは月に1000円でした。)

勿論、今のような「教育ローン」の返済に悩む学生は一人もいませんでした。日本の社会全体が、今より遥かに貧しくても、今より何十倍も何百倍も若者を大切にしていたのです。「教育に賭ける」それが、戦争に負けた日本にできる最高の作戦でした。そして、朝鮮戦争でもベトナム戦争でも米軍に「利用される」ことなく高度経済成長を遂げたのです。これは「憲法九条」のお陰です。当時の政治家は憲法を盾にアメリカにNOを言ったのです。安倍政権は米軍に利用されることに、YESと言う気なのでしょう。「教育ローン」の次は「経済的徴兵」が若者たちを待ち受けています。

2019年2月28日発行



川掃除の仲間とマンションの仲間が合体すると、こんな感じになります。若い仲間達との会話は実に楽しい訳で・・・こんな笑顔になるのです。



たかやんのプロフィール



1954年、港区青山生まれ。

本名 たかむらともや

新宿区立西戸山小中学校卒。

新宿区百人町では有名な超悪ガキで成績も超悪かった。

石神井高校ではテニスしかせず、クラスで最下位となる。

北大時代もテニスしかせず、「教職」以外の勉強はしなかった。卒論も出さずに北大を卒業。五中・六中・二中で21年間担任をする。

木村俊彦と「市民と語る会」を結成。教育問題を中心に「PTA問題」「道路問題」「ワクチン問題」「町内会の補助金問題」などにも取り組んでいる。

現在は石神3丁目の「たかやん塾」で小中学生と「個別対応」の塾をやりながら、月に一度の黒目川の川掃除と7か所での駅立ちに燃えている。

好きな政治家はホセ・ムヒカ、田中角栄、山本太郎
大嫌いな政治家は日本の「水」「種子」「漁業」「人」「農地」「森林」「国土」をグローバル企業と米国に売り渡そうとする大嘘つき、安倍晋三とその一味。

写真は親友で作家の菅淳一。彼は僕と同学年で生まれた月も同じ。彼の「玉川上水の話」は面白いなんていうものではなく、ドラマチックな訳で。



たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737
mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

③ マイクロプラスチックのお話

高校時代の友達から、こんなメールが来ました。
”ミッドウェーのコアハウドリのヒナの腹から出てきたという大量のプラゴミを見ました。日本でよく見るものばかりです。

全てのプラゴミは、いずれマイクロプラスチックになって、食物連鎖の頂点に立つ我々に返って来るようです。君達が毎月やっている川掃除は、海への入り口の管理に他ならないと思います。”

そんな内容のメールでした。十数年間、「黒目川を少しでも綺麗にしたい。子ども達の為に、綺麗な川を残したい！」そう思って、続けてきた川掃除ですが、(海に出るプラスチックを少しでも減らすのに役に立っているんだ！マイクロプラスチックを減らすことに一役買っているんだ！)そう思ったら、とっても嬉しくなってきました。今、マイクロプラスチックは世界中の水道水からも発見されているのです。

水道の民営化などが進めば、間違いなく日本の水道水にも混入していくでしょう。「水」も「農業」も命そのものです。それらを「儲け」の対象とする企業に売るなど、人間のやることではありません。

しかも、「外国資本の規制」がないのですから、滅茶苦茶です。それがTPPであり、FTAの怖いところなのです。それを知っていて、TPPやFTAを進めて行こうという政治家達は「大馬鹿」か「売国政治家」ということになります。

くどいようですが、「農地」が売られ、「種」が売られ、「海」が売られ、「移民」によって、安い労働力が海外から大量に流入してきたら、取り返しがつかないことになります。

国会では厚生労働省の役人達のデータ捏造による「アベノミクス偽装」が取り上げられていますが、マスコミ大手は役人と同じように、悪徳政治家達に懐柔され、忖度しまくっているようです。

テレビは勿論、新聞も自分の脳みそで読まないといけない時代になってきました。

政府から「東京新聞」の女性記者が名指しで攻撃されていますが、裏を返せば「東京新聞」はそれだけ、国民が信頼している新聞だということです。

共産党の新聞「赤旗」もなかなか読み応えがあります。先入観を捨てて、色々な新聞を読んで、比較してみると面白いと思います。

③ 教師を目指す人へのメッセージ5

10歳の女の子が「先生、助けて！」と言った時、一番最初に彼女に手を差し伸べられたのは担任だった筈です。悪魔のような父親から、彼女を守れたのは実は担任の先生だったのです。

彼女を守れたのは「児童相談所」でも「市教委」でも「学校」でもなく「担任」だったのです。裏を返せば、それだけ「児童相談所」も「市教委」も子ども達にとっては遠い組織だということです。

担任という仕事はそういう仕事なのです。何が何でも子ども達を守る・・・それが担任です。親から虐待されている子ども達がこれだけ大勢いるのですから、「虐め」は勿論、親からの「虐待」から子ども達を守るのも担任の仕事なのです。その仕事を「児相」や「市教委」に投げてはいけません。

自分のクラスの子どもは「本当の自分の子」くらいの覚悟が必要だということです。少なくとも僕は21年間、そういう気持ちで担任をしてきました。「そんな馬鹿な」という人もいるかも知れませんが、本当のことです。担任という生き物は、それだけ子ども達に入れ込むものなのです。本当の親と同じように接することはできないけれど・・・本当の親になれるくらいの気持ちを持つのが「担任」という仕事です。

僕はそういう先生達に、「人生」を救ってもらったのです。その恩返しは、先生達には出来ません。自分が出会う子ども達にしか返せないのです。

それが「教育」です。先生達から頂いた「愛」をこれから出会う子ども達にも伝えていくことが、僕の残りの人生の仕事だと思っています。

③ よくないパパよ！父さんワニ！

3月議会がスタートしています。平成31年度的一般会計予算は497億8600万。そして、特別会計は884億6870万。その合計は1382億5470万。合わせて覚えると「よくないパパよ！父さんワニ！」で覚えられます。市税収入は前年より5億8000万も増えているのですが、民生費が4億以上、教育費が1億以上カットされているのが今年度の予算です。教育・福祉予算が削られ、その分がそのまま大型土木事業に使われていく仕組みです。

F35戦闘機を爆買いし、沖縄の海を埋め立てる安倍政権と比べればマシとも言えますが・・・